

With コロナ時代に求められる駅前広場の将来像の提案

事業担当者

教育学部 心理教育学科 佐瀬 竜一（代表） 教育学部 心理教育学科 佐瀬ゼミ所属3年生

目的・概要

静岡駅は市外・県内からの利用客も多い静岡県内の主要駅である。駅前広場が、新型コロナウイルス感染拡大による生活様式の変化に伴い、今後どのような役割を担うべきかを見出すことが課題となっている。この課題に対応するための知見を得るために、1)～3)を実施した。

- 1) 研究1：静岡駅前を利用する大学生やその関係者を中心に幅広い年齢層に対して静岡駅前に関する認識調査をGoogle フォームにて行い、利用者にとって静岡駅前広場がどのように映っているのか、静岡駅前広場にはどんな強みがあるのか、今後何があるとよりよいと思うのかなどについてKJ法を援用して分析した。
- 2) 研究2：類似の規模、地理的条件の駅前の担当者に聞き取り調査を行った。
- 3) 研究3：上記2種の調査により集めた情報をまとめて、まとめた情報を基に駅前広場の役割や将来像について学生および静岡市役所都市局都市計画部市街地整備課職員で対話するオンラインワークショップを行った。ワークショップでは静岡市働き盛りの社会人をペルソナ（架空の利用者）として想定して、ペルソナから見た理想の駅前色場をカスタマージャーニーの手法を用いて考察した。

静岡駅前広場に関するアンケート調査

【調査の目的】
本調査は、静岡市役所都市局都市計画部市街地整備課と常葉大学、在籍研究員が共同で行っている「令和2年度しずおか中等教育研修所地域連携協議会事業」withコロナ時代に求められる駅前広場の役割や将来像、withコロナ時代への対応、駅前広場の現状や今後の課題について調査することを目的としています。調査結果の分析を通じて、駅前の利用者や生活の場向上につながる施策や環境整備策などを提案していきます。

【調査対象者からのご注意】
この調査への回答は強制ではありません。回答するかどうかはあなたが自由に決めることができます。
アンケートへの回答（協力）は、アンケート調査の返信をもって同意されたものとみなします。
回答しなくても構いません。回答しなくても構いません。
回答を途中でやめても構いません。回答しなくても構いません。
回答は、研究目的のみに使用し、それ以外の目的には一切使用しません。
回答を無効とする場合は、その旨の返信を必ずお送りください。また、お問い合わせ先へお問い合わせください。
回答の返信からデータの保管と削除まで、回答は実施者のみが閲覧する形で厳密に保管されます。

【調査方法】
*個人と個人とはせずに、あなたの所属先を把握しませんが、
*不明な点がありましたら、以下の連絡先でお問い合わせください。

【調査のやりかた】
この調査の結果を知りたい方は、実施調査者のemailアドレスに連絡ください。調査結果は、ファイルを送付する。もしくは結果するなどの形にてお返事する予定です。

【調査実施者】
常葉大学教育学部心理教育学科 佐瀬 竜一
問い合わせ先: sasakiryuichiro@shizuoka.ac.jp

*必須

待ち合わせのしやすさ	雰囲気、景観	バスターミナルの存在、利便性	商業施設の多さと駅からの近さ
待ち合わせがしやすい	地面のLEDがかわいい	バスターミナルが広く、使いやすい	駅北口はデパートなどの商業地域に近く、県内の買い物客に便利な位置にある。駅と街中が近い
北口はバス乗り場やタクシー乗り場が広く、待ち合わせにも便利だと思います。待ち合わせがしやすい、家康像がある	鳩がいたり顔像のようなものがあるのもかわいい。モニュメント配置などの個性があり、降った時にあたたかい雰囲気がある。広々としていて景色が明るい。	バスターミナルが分かりにくい。 バス停がたくさんある。	飲み屋など飲食店が多い、交番がある、ロータリーがある お店が沢山ある 人通りが多く明るい
待ち合わせ場所としてわかりやすい		バス停がわかりやすい、広くて歩きやすい	

挙げられた静岡駅前広場（北口、南口）の良さや強み

←使用した Google フォーム

事業成果

静岡駅前広場にある強みを言語化し発信する必要性が示唆された。一定のスペースが存在し、自然と密になりにくく様々な施設への行き来がしやすい静岡駅前広場は With コロナ時代に必要な駅前広場の要素の一部を既に有していると考えられる。また、視覚・聴覚・嗅覚などを活用してリラックスできる情報（空間）や実用的な情報（アルコール消毒の設置場所、お手洗いの場所）、駅施設位置やイベントの分かりやすい情報が提示すること、および提示されていることを利用者に認識してもらうことの必要性が示唆された。

本事業で協働した静岡市役所都市局都市計画部市街地整備課からは、視覚や嗅覚、細かい心情に沿って考える手法および提案が「ひと中心の空間づくり」につながる可能性があるとの評価をいただいた。